

# コース内容設定における全体ルール

## これまで

- 有明の丘研修の対面形式では75分の座学を4～8単元
- 1コース座学時間を**60分**×8単元=480分(8時間)で想定(R2第一回検討会后)  
⇒**平日1.5hの学習を行い、約一週間で完了**できる(1.5h×5日=7.5h)  
⇒オンラインプログラムは15分区切りが好ましい(R2第一～三回検討会)
- 半数のコースで視聴所要時間が480分を越えている(R4第二回検討会)

## R5年度からのコース作成ルール (案)

- コース修了に係る視聴所要時間は**480分を原則**としてはどうか
- 一単元の視聴所要時間は**60分を原則**としてはどうか
- 一単元は視聴時間**約15分**の動画を組み合わせ作成してはどうか
- コース内の**単元数及び動画数は任意**としてはどうか
- ただし多少の超過は許容し、**大幅超過しているものから見直す**

## 課題：現状のコース仕立てで視聴時間を約480分に抑えられるか

### 1. 各コースにおける単元の内容と所要時間を整理

⇒単元の組み換え等で各コース視聴時間を480分に近づけられるか

### 2. インストラクショナルデザインに従った動画作成

⇒学習目標を明確にし、あまりにも視聴時間が長い単元は撮りなおす<sup>1</sup>

# 1. 各コースにおける単元の内容と所要時間の整理

## 課題

- 単元組み換えによる全体のスリム化で視聴時間を480分に近づけられるか
- コースによって学習項目の数が異なるため、一律に480分にはならない
- コース間で教える内容が重複しているものがある



## 検討方法

- 各コースの単元内容と所要時間を整理する
  - ⇒それぞれのコースでの単元を複数カテゴリに分ける
  - ⇒それぞれのカテゴリに含まれる動画の視聴時間を整理
  - ⇒コース間でカテゴリ種別を比較し、重複内容を明示する
  - ⇒コース間のカテゴリをマージし、視聴時間を見積もる



上記の検討に基づいて、コース内容の最適化を図ってはどうか

# 1. 各コースにおける単元の内容と所要時間の整理

進め方

- コース間でのテーマ・単元の重複項目と重みを整理する
- 内閣府で構成案を作成し、コーディネーターに照会する

項目 [時間計]	コース名 重複の可能性があるテーマ・単元など [テーマ・単元の時間]
ハザード [最大 303分]	<b>防災基礎</b> テーマ①：ハザードの理解 [187分] <b>警報避難</b> テーマ③：警報避難の実際 [116分の一部]
災害関連法 [最大 151分]	<b>防災基礎</b> テーマ③：災害関連法 [43分] <b>被災者支援</b> 単元「災害救助法」、「被災者生活再建支援法」 [56分] <b>復旧・復興</b> 単元「激甚法／大規模災害復興法」 [52分の一部]
防災計画 [最大 332分]	<b>防災基礎</b> テーマ④：防災計画 [25分] <b>災害への備え</b> テーマ①：計画策定・標準化 [201分] <b>資源管理</b> テーマ①：人的資源の供給（受援）の受援計画部分 [106分の一部]
地域の人材育成 [計 311分]	<b>災害への備え</b> テーマ②：支援・連携 [237分] <b>人材育成</b> テーマ③：地域の防災リーダー育成 [74分]
災害対策本部 [座学計：156分] [演習計：245分]	<b>指揮統制</b> テーマ③：災对本部運営 [122分] <b>対策立案</b> テーマ③：対策立案の実際 [34分]+[演習：95分] <b>総合監理</b> テーマ③：災害対応の実態と施策の単元「災害対策本部体制」[演習：150分]
応急期活動 [計 399分]	<b>応急活動</b> コース全体 [99分] <b>対策立案</b> テーマ⑤：応急活動 [89分] <b>総合監理</b> テーマ③：災害対応の実態と施策 [211分]
個別避難計画 [計 208分]	<b>災害への備え</b> テーマ①：計画策定・標準化の単元「個別避難計画」 [63分] <b>警報避難</b> テーマ④：避難行動支援 [76分] <b>被災者支援</b> テーマ②：要配慮者支援の単元「個別避難計画の作成」 [69分]

# ハザード [最大303分]

## 防災基礎コース [187分]

<テーマ分けの考え方>

- ・研修体系の第3階層より整理(テーマ①～④)
- ・現状の単元構成に基づき、テーマを追加(テーマ⑤～⑥)

オン  
デマンド  
(計 469分)

防災基礎 総論 82分	<b>テーマ①:ハザードの理解</b> ①-1 ハザードのメカニズムと実態(風水害) 83分 ①-2 ハザードのメカニズムと実態(火山災害) 49分 ①-3 ハザードのメカニズムと実態(地震・津波災害) 55分 計187分			<b>テーマ②: 地域の脆弱性の理解</b> ②-1 地域の脆弱性と被害の実態 75分 計75分	<b>テーマ③: 災害関連法</b> ③-1 災害法体系 43分 計43分	<b>テーマ④: 防災計画</b> ④-1 防災計画 25分 計25分	<b>テーマ⑤:防災行政</b> ⑤-1 防災行政概要 27分 ⑤-2 災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興～ 30分 計57分	<b>テーマ⑥:災害対応過程と態度を学ぶ(心構え)</b> ⑥-1 災害対応過程と態度を学ぶ(事前学習)
	学習目標 ・風水害のメカニズムとその被害 ・風水害の防災対策の概要 ・火山のメカニズムとその被害 ・火山災害の防災対策の概要 ・地震と津波のメカニズムとその被害 ・地震災害と津波災害の防災対策の概要							

## 警報避難コース [116分]

<テーマ分けの考え方>

- ・総論で示される3つの基本要素より整理(テーマ①～⑤)
- ・避難にはフェーズに分かれるため細分化(テーマ②～⑤)

オン  
デマンド  
(計 499分)

警報避難 総論 58分	<b>テーマ①: 警報等の種類と内容</b> ①-1 警報等の種類と内容 56分 ①-2 南海トラフ地震臨時情報 60分 ①②-1 土砂災害の事例に学ぶ(ワーク) 38分 ※テーマ②で総計	<b>テーマ②:避難情報の発令判断・伝達</b> ②-1 避難情報の発令判断・伝達等 42分 ①②-2 風水害からの警報避難における決心(ワーク) 33分 ※テーマ③で総計	<b>テーマ③: 警報避難の実際</b> ③-1 土砂災害における警報と避難 52分 ③-2 風水害における警報と避難 64分 計80分	<b>テーマ④: 避難行動支援</b> ④-1 個別避難行動の支援と計画(取組指針の改訂の経緯と改訂の全体像) 32分 ④-2 個別避難行動の支援と計画(個別避難計画の必要性、対象、作成フロー) 44分 計76分	<b>テーマ⑤: 避難先の認定</b> ⑤-1 避難場所・避難所の認定と適否判断(座学部分) 20分 計20分
	学習目標 ・土砂災害における警報と避難の実務 ・風水害における警報と避難の実務 ・水害時における災害対応の難しさ				

# 災害関連法 [最大151分]

<テーマ分けの考え方>

- ・研修体系の第3階層より整理(テーマ①～④)
- ・現状の単元構成に基づき、テーマを追加(テーマ⑤～⑥)

## 防災基礎コース [43分]

オン デマンド (計 469分)	防災基礎 総論	テーマ①:ハザードの理解			テーマ②: 地域の脆弱 性の理解	テーマ③: 災害関連 法	テーマ④: 防災計画	テーマ⑤:防災行政		テーマ⑥:災害対応 過程と態度を学ぶ (心構え)
	82分	①-1 ハザードのメカ ニズムと実態 (風水害)	①-2 ハザードのメカ ニズムと実態 (火山災害)	①-3 ハザードのメカ ニズムと実態 (地震・ 津波災害)	②-1 地域の脆弱 性と被害の 実態	③-1 災害 法体系 <b>43分</b>	④-1 防災計画	⑤-1 防災行政 概要	⑤-2 災害対応力を強 化する女性の視 点～男女共同参 画の視点からの 防災・復興～	⑥-1 災害対応過程 と態度を学ぶ (事前学習)
		83分	49分	55分	75分	計43分	25分	27分	30分	
		計187分			計75分		計25分	計57分		

<テーマ分けの考え方>

- ・総論で示される学習項目を基に整理(テーマ①、②、⑥)
- ・現状の単元構成に基づきテーマを細分化(テーマ③～⑤)

## 被災者支援コース [56分]

学習目標

- ・災害対策基本法の概要
- ・その他主要な法律の概要

オン デマンド (計 581分)	被災者支援 総論	被災者救助法	被災者生活 再建支援法	テーマ①: 避難所運営		テーマ②: 要配慮者支援		テーマ③: 保健・医療		テーマ④: 広域避難	テーマ⑤: 帰宅困難/ 遺体処理	テーマ⑥: 生活再建支援	
	50分	41分	15分	①-1 避難所の ライフ サイクル	①-2 避難所 運営の 実際	①-4 災害時の トイレ問題 (座学部分)	②-1 要配慮者をは じめとする避難 者の避難生活支 援(福祉避難所)	②-2 個別避難 計画の作成	③-1 要配慮者をは じめとする避難 者の避難生活支 援(避難生活支援)	③-2 医療による 被災者支援	④-1 多様な主体に よる被災者支援/ 被災者支援の個 別課題(広域避難)	⑤-2 多様な主体に よる被災者支援/ 被災者支援の個 別課題(帰宅困 難/遺体処理)	⑥-1 生活再建 支援業務
				54分	57分	(25分)	48分	69分	43分	56分	41分	35分	72分
				計106分			計111分		計99分		計41分	計35分	計72分

学習目標

- ・災害救助法の概要
- ・生活再建支援法の概要

<テーマ分けの考え方>

- ・標準テキストに示される図より整理(テーマ①～④)

## 復旧復興コース [最長52分]

オン デマンド (計 599分)	復旧・復興 総論	テーマ①: 基盤復興			テーマ②: 生活復興					テーマ③: 社会復興	テーマ④: 産業復興			
	100分	①-1 公共基盤の 復旧 (基盤復興Ⅰ) (全体)	①-2 公共基盤の 復旧 (基盤復興Ⅰ) (公共期版)	①-3 市街地の復 興まちづくり (基盤復興Ⅱ)	②-1 仮設住宅 (生活復興Ⅰ) (制度全体)	②-2 仮設住宅 (生活復興Ⅰ) (建設型応急住宅)	②-3 仮設住宅 (生活復興Ⅰ) (賃貸型応急住宅)	②-4 仮設住宅 (生活復興Ⅰ) (管理運営)	②-5 住まいの再建 (生活復興Ⅱ)	③-1 コミュニティ 再生 (社会復興)	④-1 地域産業の 復興と 雇用確保 (産業復興)			
		3分	52分	65分	26分	64分	53分	51分	65分	77分	63分			
		計100分			計120分					計174分		計239分	計77分	計63分

学習目標

- ・災害復興の事例に学ぶ復旧復興のプロセスと法制度
- ・公共基盤の復旧復興事業制度とその概要

# 防災計画 [最大332分]

<テーマ分けの考え方>

- ・研修体系の第3階層より整理(テーマ①~④)
- ・現状の単元構成に基づき、テーマを追加(テーマ⑤~⑥)

## 防災基礎コース [25分]

オン  
デマンド

(計 469分)

防災基礎 総論 82分	テーマ①: ハザードの理解			テーマ②: 地域の脆弱性の理 解	テーマ③: 災害関連 法体系	テーマ④: 防災計画 25分	テーマ⑤: 防災行政	テーマ⑥: 災害対応 過程と態度を学ぶ (心構え)
	①-1 ハザードのメカ ニズムと実態 (風水害) 83分	①-2 ハザードのメカ ニズムと実態 (火山災害) 49分	①-3 ハザードのメカ ニズムと実態 (地震・ 津波災害) 55分	②-1 地域の脆弱 性と被害の 実態 75分	③-1 災害 法体系 43分	④-1 防災計画 25分	⑤-1 防災行政 概要 27分	⑤-2 災害対応力を強 化する女性の視 点~男女共同参 画の視点からの 防災・復興~ 30分
	計187分			計75分	計43分	計25分	計57分	

## 災害への備えコース [201分]

<テーマ分けの考え方>

- ・標準テキストに示される図より整理(テーマ①~③)
- ・現状の単元構成に基づき、テーマを追加(テーマ④)

学習目標

- ・防災基本計画の概要
- ・その他防災計画の概要

オン  
デマンド

(計 534分)

「災害への 備え」総論 54分	テーマ①: 計画策定・標準化			テーマ②: 支援・連携					テーマ③: 官民 パートナーシップ	テーマ④: 男女 共同参画の視点
	①-1 地域防災計 画・地区防災 計画 58分	①-2 個別避難 計画 63分	①-3 行政の BCP、BCM 80分	②-1 地域の 自主的な 防災活動 71分	②-2 地域防災計 画・地区防災 計画 58分	②-3 企業防災 60分	②-4 住民啓発 60分	②-5 防災教育・ 災害教訓の 伝承 46分	③-1 災害 ボランティア 42分	④-1 令和3年度「災 害への備え」 ワークショップ 110分
	計201分			計237分					計42分	計110分

学習目標

- ・行政のBCP、BCMの意義と必要要素
- ・訓練、維持管理、見直し
- ・地区防災計画の策定
- ・重要業務に不可欠なリソースの確保
- ・地域防災計画の策定
- ・個別避難計画の作成

## 資源管理コース [106分の一部]

<テーマ分けの考え方>

- ・標準テキストに示される図より整理(テーマ①~③)

オン  
デマンド

(計 385分)

応急活動 総論 64分	テーマ①: 人的資源の供給(受援)			テーマ②: 物的資源の供給(物資)			テーマ③: 空間・サービスの供給			
	①-1 地方公共団体 間の相互応援 と受援体制 (受援体制の整 備) 31分	①-2 地方公共団体 間の相互応援 と受援体制 (応急対策職員 制度) 34分	①-3 地方公共団体 間の相互応援 と受援体制 (受援計画作成 の実際) 41分	②-1 救援物資の 調達 29分	②-2 救援物資の 輸配送 39分	②-3 救援物資ロ ジスティクス 演習(ワーク) 29分	③-1 活動拠点・ 環境の確保 (活動拠点) 25分	③-2 活動拠点・ 環境の確保 (燃料) 39分	③-3 活動拠点・ 環境の確保 (水道) 29分	③-4 活動拠点・ 環境の確保 (電力) 25分
	計106分			計97分			計118分			

学習目標

- ・応急活動の実施に当たっての行政職員の確保の重要性
- ・行政機関の間で行われる応援受援の仕組み
- ・行政機関の応援受援を円滑に行うための留意点

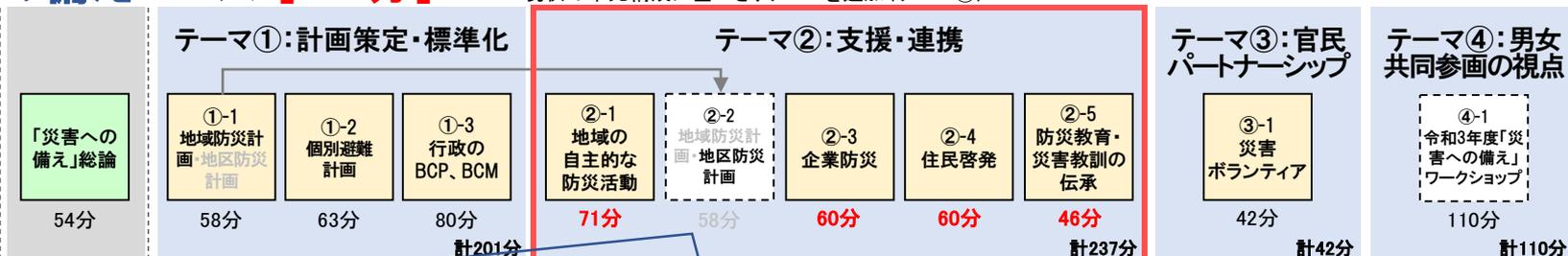
# 地域の人材育成 [最大311分]

## 災害への備えコース [237分]

<テーマ分けの考え方>

- 標準テキストに示される図より整理(テーマ①~③)
- 現状の単元構成に基づき、テーマを追加(テーマ④)

オン  
デマンド  
(計 534分)



### 学習目標

- 自主防災組織の目的と制度概要
- 自主防災組織に期待される役割と現状、課題
- 地域の他の自主的な防災団体の役割と現状、課題
- 地域の防災訓練の意義と基本的な方法
- 指定(地方)公共機関である企業の防災での役割と行政との連携
- 災害対応における企業の役割
- 災害協定の重要性和協定締結状況
- 企業の事業継続計画(BCP)の意義と特徴
- 防災教育の意義と基本的な方法
- 学校教育又は課外活動における防災教育の具体的な事例
- 地域コミュニティ向けの防災教育の具体的な取り組み事例
- 住民の防災の責務と啓発の意義
- 住民啓発の方法
- 住民啓発の留意点
- 災害教訓の伝承の意義と具体的事例

## 人材育成コース [74分]

<テーマ分けの考え方>

- 総論で示された目次と現状の単元構成に基づき、テーマを整理(テーマ①~③)

オン  
デマンド  
(計 332分)



### 学習目標

- 地域の防災リーダーの育成に関する基本的な考え方
- 地域の防災リーダーの育成に関する留意点

# 災害対策本部 [座学計:156分 / 演習計:245分]

## 指揮統制コース [122分]

<テーマ分けの考え方>

・現状の単元構成に基づき、テーマを整理(テーマ①~④)

オン デマンド (計 475分)	指揮統制 総論 (世界標準に則した指揮統制) 121分	テーマ①: 指揮統制の仕組み ①-1 指揮統制の世界標準(危機対応に必要な役割(部門)と機能) 49分 ①-2 指揮統制の現状 29分 計78分		テーマ②: リーダーのあり方 ②-1 リーダーシップのあり方 60分 計60分	テーマ③: 災対本部運営 ③-1 日本社会に適した指揮統制のあり方(危機対応組織を動かす6つの視点と14の原則) 60分 ③-2 参謀にとつての災害対策本部運営 62分 計122分		テーマ④: 広報 ④-1 災害広報(行政の視点) 36分 ④-2 災害広報(メディアの視点) 49分 ④-3 災害広報(演習方法) 9分 計94分		
	計121分	計78分	計60分	計122分	計94分				

### 学習目標

- ・危機対応の世界標準について
- ・指揮統制を適用する場面
- ・危機対応の6つの視点
- ・教育、訓練の重要性
- ・危機対応の組織
- ・参謀組織の構築
- ・情報の処理と状況判断
- ・部局横断的な実施体制の整備
- ・指揮の実行

## 対策立案コース [34分+演習:95分]

<テーマ分けの考え方>

・現状の単元構成に基づき、テーマを整理(テーマ①~⑤)

オン デマンド (計 479分)	対策立案 総論 126分 計126分	テーマ①: 対策立案の仕組み ①-1 指揮統制の世界標準(危機対応に必要な役割(部門)と機能) 49分 ①-2 災害対策本部が行う対策立案プロセス 56分 計105分		テーマ②: 情報共有 ②-1 地図による状況認識の統一とISUTの試み 65分 計65分	テーマ③: 対策立案の実践 ③-1 災害対策本部運営演習 34分 計34分	テーマ④: マニュアル作成方法 ④-1 効果的な災害対応計画・マニュアルの作成方法 60分 計60分	テーマ⑤: 応急活動 ⑤-1 応急期の政府支援(全体) 4分 ⑤-2 応急期の政府支援(消防庁) 15分 ⑤-3 応急期の政府支援(警察庁) 15分 ⑤-4 応急期の政府支援(防衛省) 14分 ⑤-5 応急期の政府支援(海上保安庁) 13分 ⑤-6 応急期の政府支援(国土交通省) 14分 ⑤-7 応急期の政府支援(DMAT) 14分 計89分						
	計126分	計105分	計65分	計34分	計60分	計89分							
オン ライン (計 145分)	全体討論 50分 計50分				③-2 災害対策本部運営演習 95分 計95分								

### 学習目標

- ・災害対策本部の運営

## 総合監理コース [演習:150分]

<テーマ分けの考え方>

・総論のコース構成の記載と現状の単元構成に基づき、テーマを整理(テーマ①~③)

オン ライン (計 200分)	全体討論 50分 計50分	テーマ①: 被害抑止施策	テーマ②: 防災政策立案	テーマ③: 災害対応の実態と施策 ③-5 災害対策本部体制 150分 計150分
	計50分			計150分

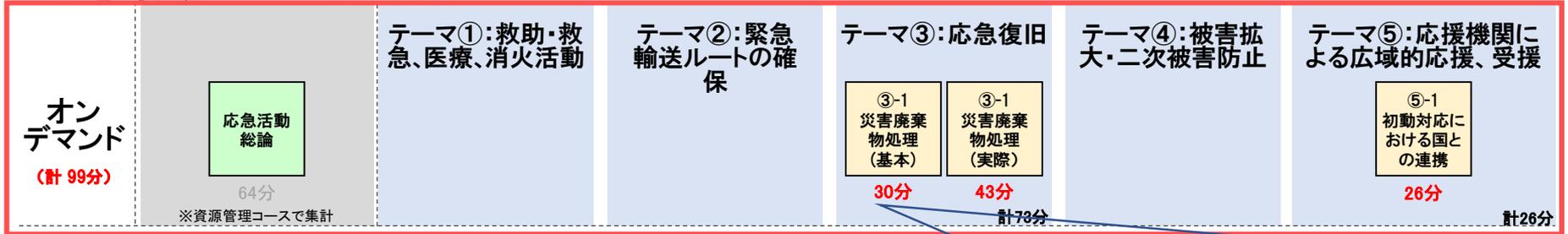
### 学習目標

- ・災害対応におけるプロジェクトマネジメントとしての災害対策本部体制の枠組み
- ・災害対策本部に必要空間レイアウト
- ・災害対策本部運営の心構え
- ・災害対策本部体制の構築するために必要な組織
- ・災害対策本部運営に重要な流れ

# 応急期活動 [計 399分]

## 応急活動コース [99分]

<テーマ分けの考え方>・標準テキストに示される図より整理(テーマ①~⑤)

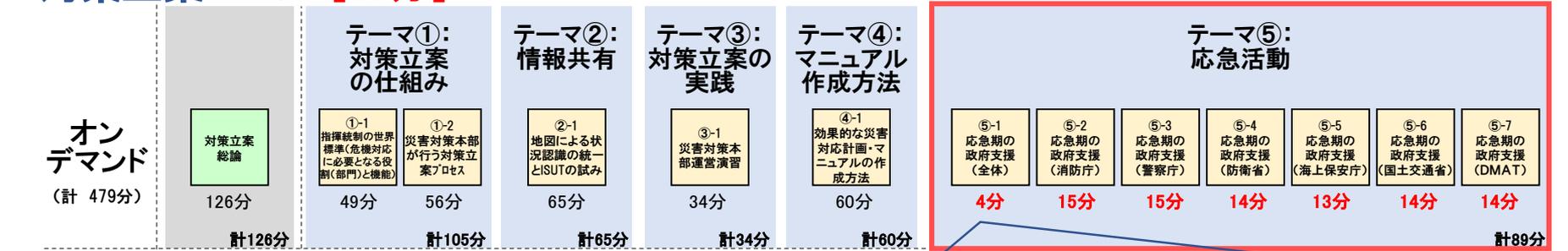


### 学習目標

- ・災害廃棄物処理の概要
- ・災害廃棄物処理における資源管理と応援受援
- ・遺体取扱
- ・帰宅困難者
- ・政府の初動対応
- ・具体的な応急対策活動に関する計画
- ・政府と被災地方公共団体との連携

## 対策立案コース [89分]

<テーマ分けの考え方>・現状の単元構成に基づき、テーマを整理(テーマ①~⑤)

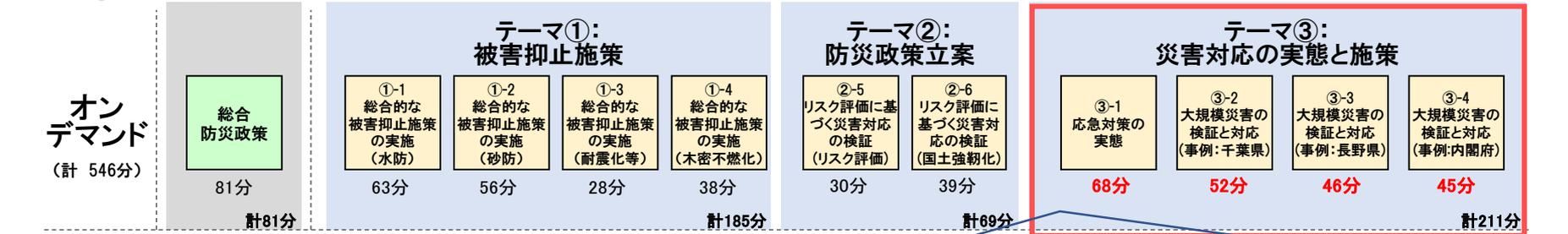


### 学習目標

- ・政府の諸機関の活動方針
- ・状況に応じて政府の資源を適切に活用する方法
- ・災害応急期に実施される内閣府の現地対策本部の活動
- ・緊急消防援助隊・自衛隊・TEC-FORCEの活動
- ・警察災害派遣隊・海上保安庁・DMATの活動

## 総合監理コース [211分]

<テーマ分けの考え方>・総論のコース構成の記載と現状の単元構成に基づき、テーマを整理(テーマ①~③)



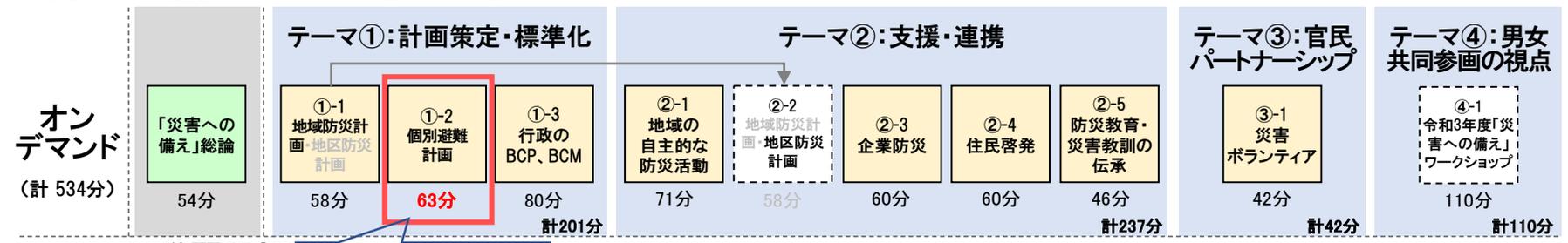
### 学習目標

- ・災害対策本部における災害応急活動の実態
- ・広域防災拠点ネットワークと緊急輸送路ネットワークの考え方
- ・国や都道府県、市区町村、各種関係機関との広域応援の考え方
- ・自主防災組織や企業など民間との連携
- ・近年の災害対応のその検証

# 個別避難計画 [計 208分]

## 災害への備えコース [63分]

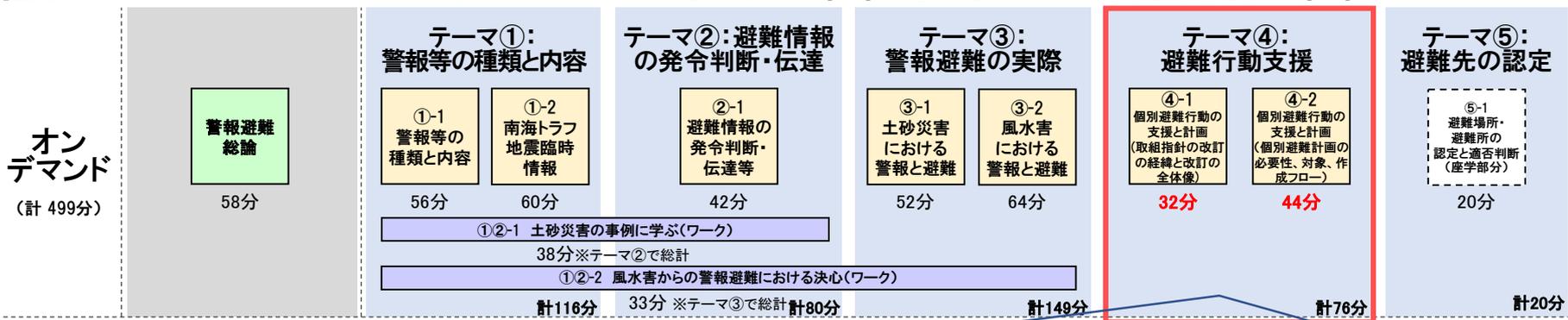
<テーマ分けの考え方>  
 ・標準テキストに示される図より整理(テーマ①~③) ・現状の単元構成に基づき、テーマを追加(テーマ④)



学習目標・個別避難計画の作成

## 警報避難コース [76分]

<テーマ分けの考え方>  
 ・総論で示される3つの基本要素より整理(テーマ①~⑤) ・避難にはフェーズに分かれるため細分化(テーマ②~⑤)



学習目標

- ・避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針の改定の経緯
- ・個別避難計画がなぜ必要なのか
- ・取組指針の改定の全体像
- ・個別避難計画の対象者
- ・個別避難計画を作る具体的なワークフロー

## 被災者支援コース [69分]

<テーマ分けの考え方>  
 ・総論で示される学習項目を基に整理(テーマ①、②、⑥) ・現状の単元構成に基づきテーマを細分化(テーマ③~⑤)



学習目標

- ・脆弱化した社会と正常化の偏見
- ・避難関連計画と個別避難計画作成のステップ
- ・近年の災害と高齢者、障がい者等の被害
- ・福祉避難所ガイドライン改定
- ・個別避難計画と福祉BCP、地区防災計画の関係

# 2. インストラクショナルデザインに従った動画作成

## 例：単元のスライドテンプレートの構成

## インストラクショナルデザイン

学習者の学習効果を最大化するための学習設計を行うこと。

1単元分（講義：約60分）

**I. 単元の紹介（1分）**

- ① 単元の表紙
- ② 講師の所属と氏名+単元概要 ※講師出演動画
- ③ 単元の学習目標(1分)

**II. 区分1（15分）**

- ① 区分1の表紙
- ② 区分1の学習項目(3分)
- ③ 区分1の内容(12分)

**III. 区分2（15分）**

- ① 区分2の表紙
- ② 区分2の学習項目(3分)
- ③ 区分2の内容(12分)

**IV. 区分3（15分）**

- ① 区分3の表紙
- ② 区分3の学習項目(3分)
- ③ 区分3の内容(12分)

**V. 区分4（15分）**

- ① 区分4の表紙
- ② 区分4の学習項目(3分)
- ③ 区分4の内容(12分)

**VI. 単元のふりかえり（1分）**

- ① 単元のふりかえりの表紙
- ② 講師によるふりかえりの導入 ※講師出演動画
- ③ 単元の学習項目(ふりかえり)(1分)

**VII. 確認テスト ※LMSのテスト機能を利用**

単元に関連する〇×問題を1つの区分につき1問、計4問出題

ガニエの9教授事象	
1.	学習者の注意を獲得する
2.	授業の目標を知らせる
3.	前提条件を思い出させる
4.	新しい事項を提示する
5.	学習の指針を与える
6.	練習の機会をつくる
7.	フィードバックを与える
8.	学習の成果を評価する
9.	保持と転移を高める

### 動画作成方針のご提案

- 各単元の学習目標を明確にする
- 学習目標を達成するための内容
- 学習目標の理解を確かめるテスト

### 3. コース内容設定における 4 要素の役割

- 各コース毎に概論、各論、演習、総合討論の 4 要素を準備
- 以下の設定を研修指導要領に明記してはどうか

#### 概論

各コースの全体像と防災対応の要点を身に付ける

#### 各論

防災対応の活動遂行に必要な知識を身に付ける

#### 演習

防災対応に関するアクティブラーニングの場

- 座学で得た知識の定着
- 課題発見能力の養成

#### 総合討論

防災対応に関するアクティブラーニングの場

- 質疑応答と振り返りによる学習内容の理解

# 3. コース内容設定における 4 要素の役割

• 職位・業務毎に 4 要素の役割を以下のように設定してはどうか

	概論	各論	演習	総合討論
<p><b>上級管理</b>  <b>災害対策本部運営：</b>                      組織のトップの懐刀として、防災業務を全般的に知り、調整できる</p>		災害対策本部運営(市区町村の危機管理監等のマネジメント業務)、予防・応急・復旧復興を遂行するために、必要な知識を身に付ける	災害対策本部運営(市区町村の危機管理監等のマネジメント業務)、予防・応急・復旧復興について、座学得た知識を定着させ、課題発見能力を養成する	災害対策本部運営(市区町村の危機管理監等のマネジメント業務)、予防・応急・復旧復興について、質疑応答と振り返りにより理解を深める
<p><b>一般管理</b>  <b>現場リーダー：</b>                      防災業務全般に関する基礎的な知識があり、一定範囲の業務の調整ができる</p>	各コースの全体像と、災害対応業務(予防、応急、復旧復興)を遂行するための要点を身に着ける	災害時の現場リーダーの業務(災害対策本部の班長、市区町村の課長等の現場でのマネジメント業務)、予防・応急・復旧復興を遂行するために、必要な知識を身に付ける	災害時の現場リーダーの業務(災害対策本部の班長、市区町村の課長等の現場でのマネジメント業務)、予防・応急・復旧復興について、座学得た知識を定着させ、課題発見能力を養成する	災害時の現場リーダーの業務(災害対策本部の班長、市区町村の課長等の現場でのマネジメント業務)、予防・応急・復旧復興について、質疑応答と振り返りにより理解を深める
<p><b>実務担当</b>  <b>実務担当：</b>                      予防、応急、復旧・復興の各段階における専門的な業務を、迅速かつ適切に実行できる</p>		実務担当の業務(市区町村の係長等の現場でのオペレーション)、予防・応急・復旧復興を遂行するために、必要な知識を身に付ける	実務担当の業務(市区町村の係長等の現場でのオペレーション)、予防・応急・復旧復興について、座学得た知識を定着させ、課題発見能力を養成する	実務担当の業務(市区町村の係長等の現場でのオペレーション)、予防・応急・復旧復興について、質疑応答と振り返りにより理解を深める